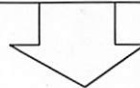


## GAP

世界の食をめぐる状況

①フードチェーンのグローバル化、複雑化	----->	流通過程の不透明化
②人口増、食糧不足	----->	環境破壊進行
③児童労働等	----->	人権保護
④情報化の進行	----->	世界・個別の問題が消費者に見える化
⑤世界水準向上、ニーズの多様化	----->	高品質商品へのニーズ



「見える化」ニーズの高まり  
(規格・認証の重要性拡大→対応しないと劣後になる)

GAP (Good Agricultural Practice) とは農業生産工程管理のことで、農業における食品安全、環境保全等の持続可能性を確保するための、生産工程管理の取組。



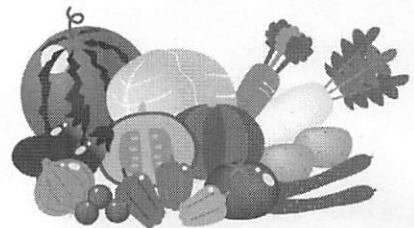
具体的には

生産者が日頃行っている生産履歴の記帳を中心に、食品安全、環境保全、労働安全を確保するための点検などの取組状況を記録簿や掲示物によって「見える化」しながら、よりよい農業を目指していくこと。

**ステップ1** ☞整理整頓と生産履歴の記帳が基本

**ステップ2** ☞チェック項目に従って、農場内の点検

- ・ 食品安全-----・ 異物混入防止
  - ・ 農薬の適正使用と保管
  - ・ 来訪者への衛生指示
- ・ 環境保全-----・ 適切な施肥
  - ・ 土壌浸食防止
  - ・ 廃棄物の適正処理
  - ・ 利用水の使用量把握と節水対策
- ・ 労働安全-----・ 機械・設備の点検・整備
  - ・ 作業安全用の保護具の着用
- ・ 人権保障-----・ 家族経営協定の締結
  - ・ 技能実習生の作業条件遵守
- ・ 農場経営管理-----・ 責任者配置
  - ・ 教育訓練実施
  - ・ 内部点検実施
- ・ その他-----・ 資材仕入れ先評価



生徒への指導に  
置き換えられる？

GAPの取組が農業高校にも求められてくる！将来の担い手のGAPが当たり前として浸透させるねらいがある。これから取得に必要な、指導者育成や設備の整備等が必要であろう。

# 日本農業新聞

## 農高授業にGAP

### 農水、文科省 実践や認証取得促す 各県に通知

農水省と文科省は連名で、農業高校で農業生産工程管理(GAP)を授業に取り入れるよう促す通知を、都道府県に発出した。GAPを授業の実施計画に盛り込むことや、国際水準のGAP認証を取得するよう呼び掛ける内容。将来の担い手にGAPを当たり前のものとして浸透させ、認証取得を農産物の取引条件にする食品事業者の動きに対応してこい。

17日に農水省は都道府県、文科省は教育委員会に通知した。GAPは教育の基

本方針となる「学習指導要領」に、授業に取り入れられるものの例示として取り上げられているが、これを具体化するよう、通知で一歩踏み込んで求めた形だ。

通知では、GAPは「生産技術の習得に加えて、経営感覚を兼ね備えた人材として必要な資質・能力の育成に資す

る」と指摘。いつ、どれくらいの時間、どんな学習を行うのかなどを定める「年間指導計画」に、GAPを指導することや、農場実習などで実践することを「明確に位置付け」るよう促した。欧

州発で国際水準の「グローバルGAP」や、日本で国際水準を目指す「JGAPアドバンス」

を指導することを目指す。GAPの認証取得を食品小売業が取引先の農家に求める動きが、特に欧州など海外で先行していることから、農産物の販路拡大につながる重要な手段だとも指摘。輸出に

取得することも求めた。GAPの認証取得を食品小売業が取引先の農家に求める動きが、特に欧州など海外で先行していることから、農産物の販路拡大につながる重要な手段だとも指摘。輸出に

取り組む農家をはじめ、生産現場でのGAPの実践者らによる出前授業を行うことも促した。

自民党は、小泉進次郎農林部会長の主導で19日にまとめたGAPに関する提言で、農業教育機関でのGAP教育の促進を提起。高校の学習指導要領は今年度が改訂時期に当たることから、改訂に合わせてGAP教育を拡充することも求めている。一方で両省は、全ての農業高校でのGAP認証の取得に向け、教員向けの研修や専門家派遣なども進める方針だ。

日本全国から選ばれた農業高校の教諭5人が、29日から1週間の日程でフランスの農業高校を訪問する。フランス政府が、両国間の長期的な農業分野の交流を促進しようと、今回初めて行う交流プログラムだ。参加者は「これからの日本の教育に役立てたい」と意気込む。フランスでは、地元農業が農高の会場で教育を主導しているのが特徴だ。(特別編集委員・山田真)

### フランス流

記者が3月に訪問したフランス南部のカオール近郊にあるカオール・モンタ農業高校は、18世紀の初めに当時の修道僧が農業技術を研修する施設として設けたのが由来とされる。同校は、国内で唯一トリュフの研究と教育を行っているので有名だ。また主力産業であるワイン醸造コースもある。ワインコースはフランスの

## 地元農家が教育主導

農高の中で30校以上が開だ。伝統的な製法と近代般する人気分野。同校の的な製法の両面を授業で周田もカオールワインと学べ、地元以外からの生徒も呼ばれるブランド産地徒も多い。2000人の生

## 交流日 農高版 事始め



▼写真上: 学校給食は自分たちで栽培した野菜がふんだんに使われる。右: カオール・モンタ農高のゼレシ会議。非営利だが、教育方針作りでは主導権を握る。(いずれも同校で)

## エコや輸出参考に 教諭5人が1週間渡仏

主催はフランス政府で、日本の農水省と文科省が協力した。全国の農高から40人の応募があった。選定を依頼された農水省は、農業高校の関連団体や協会の助力で全国で募集。訪問した後に向き合いを兼ね、意欲的な教諭を選んだと話す。

フランス北部のアラン近郊にある「近郊カオール農高」の校長が訪問した。同校は、フランス政府が協力して「プロデュース」をテーマにした「AM#1」を掲げている。

日本の農水省も、農業面での先進的なフランス農高校との交流を巡り、若い世代が農業の国際化に関心が高まっている効果を見込む。農産物輸出や環境への配慮などの面で先進的なフランス農高校との交流を継続する方向で検討する考えだ。

参加する兵庫県立篠山東農高等学校教諭の菊川裕幸さん(28)は「フランス農高は環境に配慮した持続的な生産を誇っている」と聞き、自らが専門とする花きの分野でこのような技術を教えているのか、園芸検定の利用の事例はあるが、政府が主催して実施するのは初めて」と説明する。

「自治体や学校が独自に海外の農業高校と交流する事例はあるが、政府が主催して実施するのは初めて」と説明する。

フランス北部のアラン近郊にある「近郊カオール農高」の校長が訪問した。同校は、フランス政府が協力して「プロデュース」をテーマにした「AM#1」を掲げている。

# 自民 GAPで農高と意見交換 研修や施設支援を

農業高校で農業生産工程管理(GAP)認証の取得に取り組んでもらおうと、自民党農林・食料戦略調査会、農林部会、農林水産業育太方針実行プロジェクトチーム(PPT)、小泉進次郎委員長(以下、小泉委員長)などは23日、東京都内で、農高の生徒や校長との意見交換会を開いた。

参加者からは、認証取得効果に対する期待の声の他、教員への研修や必要施設整備への支援を求める意見が出た。

意見交換会には、農高として日本で初めてグローバルGAPを取得した青森県立五所川原農林高校の生徒3人や全国の農高の校長ら約120人が参加。活動を発表した同農高生らは「GAPを生かして、実家を日本一の農業法人にしたい」などと、手応えや期待を発表した。

参加した校長からは「取得に必要な施設の整備や指導者の育成など、

ハード、ソフト両面で支援が必要」などの意見が上がった。

小泉委員長は「GAP取得を難しいと思っている大人は多いが、取得が当たり前という教育を受けた農高生が日本の農業を牽引する」と意義を強調した。

農水省と文部科学省は、GAPを授業の内容に取り入れ、国際水準のGAPを取得するよう呼び掛ける通知を都道府県に出している。